

議会報告会実施報告書

開催日時	平成28年4月20日 19時00分 ～ 20時30分
開催場所	林田公民館
出席議員	(班長) 東山光徳 (司会) 出田泰三 (記録) 村井孝彦 (議長) 前川昌也 (班員) 野角満昭, 若杉輝久, 楠井常夫
参加市民数	19人 (男性10人, 女性9人)
実施内容	<p>議会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会挨拶 前川 昌也 ・出席議員自己紹介 ・委員会報告 <ul style="list-style-type: none"> 予算概要 若杉輝久 総務消防委員会 村井孝彦 教育民生委員会 楠井常夫 市民建設委員会 野角満昭 坂出北フルインター 建設促進特別委員会 若杉輝久 ・質疑応答 ・意見交換会 ・閉会挨拶 東山光徳
	<p>質疑応答</p> <p>〈質疑〉 旧市立病院の解体費用4億5,000万円を踏まえ、その跡地の活用は市民に役立つ施設にするのか。</p> <p>〈回答〉 現時点で何にするか決まっていない。全くの白紙状態であるが、有効活用に関しては議会も努力する。</p> <p>〈意見〉 私の年齢から言えば、老人ホームが不足している。現状、入所待ちが100～150人といわれているので老人ホームにしては。</p> <p>〈意見〉 旧市立病院跡地の活用も決まっていない現状や借金だらけの状況で、市民の立場からすれば、売却してこれ以上税金等で市民への負担や市としての無駄をする必要はないのではないか。</p> <p>〈回答〉 もっともな御意見であり、現実として旧市立病院の跡地を何にするかは理事者側も決まっていない状況であり、売却も1つの選択肢と思う。また、先般示されたグランドデザインにおいては、各施設の跡地問題や新たな文教地区、防災拠点等の構想はあるが、まだ決まっていない。それは、人工土地や市民ホールの問題等、関連した多大な検討・方向づけの最中で、議会としても議論して進めていきたいと考えている。</p>

〈質疑〉 坂出北インターのフル化について、あの時やっておけば、今頃になって大騒ぎしていることもなかったし、何で当時単に瀬戸大橋が出来ただけのお祭り騒ぎにしかならなかったか不思議でならない。

〈回答〉 フルインターについても、当初は坂出インターもあり、それから2 kmしか離れていないので、とりあえずハーフインターでもと無理やりつくったのも事実であるが、それから新たな地域の活性化等の要望より、現在の前向きな方向での準備が企業立地、防災対応等の目標と連動して進んでいると理解していただきたい。

〈回答〉 先ほどのフルインターの質問について付け加えると、本年3,150万円を計上しているが、これはフルインター化した場合の地域経済の発展や大規模災害への防災対策効果等、調査・概略設計のためのものであり、国による全般事業ということで坂出市の負担は大幅に減っている。また、開通段階になると、インター本体の事業費は国が持ち、取り付け部分の道路工事は坂出市が担当するというので、全般的に市の負担軽減が図られるということになる。

〈質疑〉 空き家対策費として734万円計上しているが、これぐらいの費用で何ができるのか。また、実態調査すると言っているが、その専門的な知識やマニュアル化等はされているのか。

〈回答〉 今年度の予算は空き家の危険度を含めた調査費であり、解体等の経費ではない。また、調査は専門的業者に委託するものである。税金の未納部分についても調査する。

意見交換

〈質疑〉 坂出が災害時の支援拠点になるとよく言われるが、南海トラフの地震等が発生した時は坂出も被害を受ける可能性もあり、橋があるからというだけで、高知、愛媛、徳島等から救援用物資が運ばれてくるという意味が分からない。

〈回答〉 それは逆である。説明すると、坂出港には防災支援の港として耐震岸壁が造られており、ここに入ってくる多大の救援物資等を被災が大きいと予想される高知などへ送り届ける拠点基地としての役割が坂出にはあると理解していただきたい。連携して、瀬戸大橋も北インターのフル化もその意味で価値なり役割がある。

〈質疑〉 本市の災害対応でも、また今回の熊本地震においても、指定避難場所しか救援物資が来ていない。指定されていない施設への避難者に物資の未到着が報じられているが本当なのか。また、備蓄場所等の関係もあると思うが、何か不備はないのか。

〈回答〉 坂出市の防災計画における避難所の設置のための検討は重ねられ、やはり学校や出張所等が主になっている。避難場所の広さ、駐車場の有無、トイレ等の施設の要件も含め、そこには必ず水、食料、毛布

等が備蓄されている。しかし、今回の熊本地震においては、多くの被災者が指定避難所以外の施設に避難し、その方々への緊急物資の配給が問題視されているのが実態であり、本市としても重要な教訓として避難所のあり方や備蓄要領等、さらなる検討や修正が必要であると考えている。また、地震の場合は道路の地割れ等による不通状態が起き、持っていきたくても車両では道路補修しなければならず、ヘリによる空輸等も合わせ、状況に応じた現場努力をしていることは理解してもらいたい。

〈回答〉 お願いにはなるが、自主防災組織への関心と充実により、それぞれの地域での自助・共助の体制も図っていただきたい。隣接の丸亀市川西町では先進的に自主防災に力を入れ、独自の備蓄、避難等々実施しているので参考にしていきたい。

〈回答〉 一例ではあるが、有線放送廃止に伴い、その関連施設（松山地区）を県側から借り受け、現在市の地域防災備蓄倉庫として活用している。

〈質疑〉 話の中にもあまり災害に対するデータもないし、坂出市の特性として実際大きな災害もないところで言う人も聞く人も多少の戸惑いはあっても興味がないので頭の切り替えが難しい。津波や地震の話ばかりなら、少しデータも充実し、少し大げさな話にして危機感を持たずぐらいでないと効果はないと思う。

〈回答〉 防災に対する備えは非常に重要なことなので、今回の熊本地震も教訓にさらなる対策を考えて講じていかなければならないと考えたい。

〈質疑〉 30年後に発生するとか、30年以内にはないから頭はないとか、非常に確定的ではない話であることから分かりにくい。もっと工夫はないのか。

〈回答〉 災害による被害は時間がたてば風化し忘れられてしまう。本市としての震災対応なり復興復旧なりの教訓は、今回の熊本地震や阪神淡路大震災が最近のものとしてある。津波や一部原発の話があるが、坂出の地勢の特性に応じた話で言うと記憶から薄れつつある阪神淡路大震災の教訓を思い出し、災害に対する備えを今一度考えなければならない。

〈質疑〉 少子化も重要な問題である。市長とも少子化の解決策について話す機会があった。これからは若者に対して投資していく施策を考えていくべきでは。

〈回答〉 人口増対策として、若者の移住促進や子育て支援への対策は本市も十分に取り組んでいる。子供の保育料軽減や医療費助成、さかいで子育て支援センター事業や新婚世帯家賃補助制度など、さまざまな事業に取り組んでいることをご承知願う。

